

18th APHS Conference@ Penang 参加報告書

静岡市立静岡病院 おなかのヘルニアセンター 小林敏樹

この度は、JHS の Scholarship に選出していただき、誠にありがとうございました。

これまで、自分の言語力のなさもあり、海外学会に参加する意欲が全くわいてきませんでした。ですが 2023 年 5 月、第 21 回日本ヘルニア学会学術集会懇親会からの帰路、四谷メディカルキューブの今村清隆先生から APHS への参加を勧めていただいたことがきっかけとなり、このたび人生初の海外学会に参加した次第です。

今回が初めての国際学会参加ということもあって、演題登録や参加登録、ポスター登録等に少々不安を感じておりましたが、学会ホームページもわかりやすく、あまり苦労せず登録することができ、ホッとしました。

開催地はマレーシア屈指のリゾート地であるペナン島でしたが、会場は観光地やビーチからは離れたところにあり、リゾート感はあまり感じられませんでした。

私は会期 2 日前に現地に入り、まず会期前日に行われた今村先生のライブ手術を見学しました。プレッシャーのかかる異国の病院という環境の中での、今村先生の eTEP・TAR の素晴らしい手術手技に大変感激いたしました。

会期 1 日目は、微力ながら、今村先生が主催された Suturing Workshop のお手伝いをさせていただきます。JSES で行われているような縫合結紮講習会は、海外の人にとっては目新しいことのように、会場は大変な熱気であったことが印象深かったです。



さて、肝心の自分の発表は E-Poster でした。特別な発表の時間は設けられておらず、参加者が自由に閲覧し、質問や意見があれば web で記載し、ディスカッションするというものだったようですが、自分の E-Poster には何のコメントもありませんでしたので、少し寂しく感じております。はじめて参加した Gala dinner は国内学会懇親会に比べると、かなりにぎやかであり、お祭りのようでもあり、非常に楽しかったです。日本から参加した先生方や海外の先生方とも仲良くなれて大変有意義な時間を過ごすことができました。

自分の英語力のなさもあり、海外の先生方の発表への理解がなかなか追いつかないことや、コミュニケーションの拙さに、歯がゆさを感じたりもしましたが、今回の APHS に参加で

きたことは自分にとって非常に良い経験となりました。

来年シンガポールで開催される APHS にも、ぜひ参加したいと感じた次第です。

最後になりましたが、このような貴重な経験をする機会を与えていただきました、JHS 理事長の蜂須賀丈博先生、JHS 国際委員会委員長の三澤健之先生をはじめ、関係者の皆様方、そして今村清隆先生に、厚く御礼申し上げます。

